

おわりに

夏休みを利用して、約1ヶ月で、大学ノートに全30話を訳しました。そのあと、ホームページに、暇を見つけて、少しずつアップしていたら、結局こちらも1ヶ月かかりました。

南国フィリピンに、ワークキャンプにでかけて、豊かな文化に触れたのですが、この本を訳しながら、改めて、それを考えることになりました。

フィリピンに行くと、豊かな果物を口にする機会が多いですが、この本では、バナナ(11話)、グアバ(13話)、マンゴ(21話)などの起源を語った話が出てきます。ルソン島、ミンダナオ島、ビサヤ諸島などの起源の話(2話)もあります。日本の古い神話にも、日本列島の起源を説明した神話がありますね。また、人間が、蝶(12話)、人魚(14話)、鳥(15話)、猿(27話)などになる話は、残酷な気持ちになったりします。

今年キャンプした、サン・イシロでは、30年前にゴールドラッシュがあって、現在も金を掘っている人がいました。そして、実際にその日掘ったばかりの金を見せてもらったのですが、この本でも、場所こそ違え、(3話)に金鉱の起源のような話が出てきます。

女神の像に真珠の涙を流させる話(26話)は、トルストイの「二老人」やそれから展開した、クリスマスのお話「鳴らない鐘」などを連想させました。また、犠牲を要求する話(10話、13話)などは、聖書の物語を思い出させてくれました。

スペインの支配(6話)や、キリスト教の影響の中で、どのようにそれが受け入れられ、従来の宗教と共存しているか、という問題(18話)など、非常に興味深い話でした。

中でも、私に一番印象に残ったのは、(5話)でした。人間によくある争い、戦争などの解決のためには、武力ではなく、当事者が顔を会わせて話し合うこと。そして、特に私たちはみんな兄弟であることに気付くことが大切であることを知らされました。

編集者の意図をどれくらい汲み取って訳せたフィリピンの神話と伝説 おわりに

か、自信がありませんが、この30の物語から、たくさんの示唆が与えられるはずです。

みなさんは、どの話が印象に残りましたか。

最後に、この原著には、J.A.マルチネスさんの、油絵や水彩画など合計50点の挿絵、と言うより、美しい絵画が載っていて、それがこの本のもう一つの魅力です。しかし、絵の方は、著作権の問題などあると思われるので、載せていません。

言葉の表現などで、お気づきの点があったら、教えてください。訂正して、読みやすいものにしたと思います。

翻訳権など、編集者とは交渉しておりませんが、今のところ、これを製本することは考えていません。

どうぞ、意見をお聞かせください。

2005年9月18日

訳者 司祭 フランシス 小林 史 明